



マンガ 宮崎県郷土先覚者シリーズ③ 京し マンガ / 太神美香

諦めものか!! いや...

こうして兼寛は海軍軍医のトップと なつて石神の策を 海軍医と なつた

一八七二 (明治五年) 年

脚気の 初期症状 ですね

苦しむ人々を 救つために 医者になつたのだ

そのための イギリス留学で なかつたのか!!

私ももっと イギリスの医師を 学みたい.....

ビタミンの父

電報が 届きました!!

高木兼寛

助苦 たい...

先生!!



めいじじだい
明治時代
ねんかん まんにんいじょう
年間1万人以上が
びょうき な
「ある病気」で亡くなって
いたという

はっしょう
発症すると
あし
手足がしびれ
やがてマヒし

しんぞう
心臓が侵され
ひどくなると
しした
死に至る…

ふる
古くから国民病と
おそ
恐れられていた

かつけ
「脚気」である

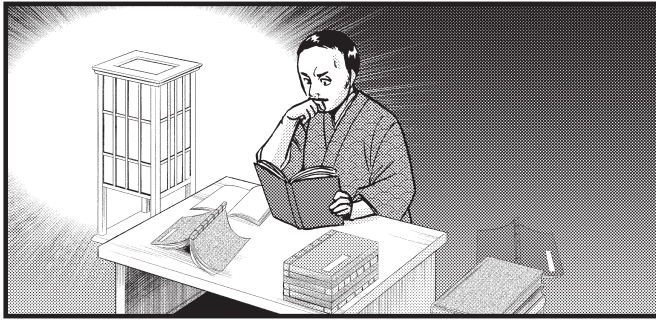


とうじ
当時は
でんせんびょう
伝染病と考えられ
おお
多くの医学者が
けんきゅう
研究を重ねるも

げんいん
原因をつきとめ
られずにいた

— そんな中

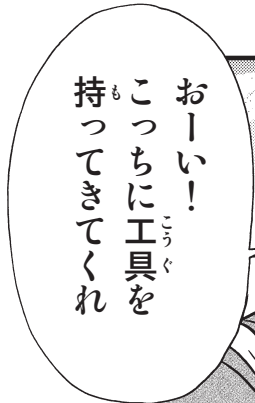




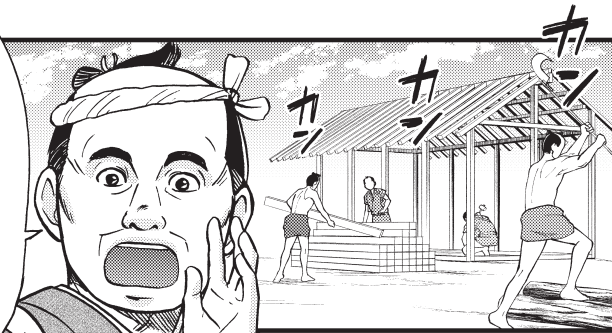
いのち
命をかけて
かっけ
脚氣の原因を
げんいん
つきとめた
ひとりの
いしちや
医者がいた



「ビタミンの父」
たかきかねひろ
高木兼寛である



おーい！
こっちに工具を
もってきてくれ



一八五六（安政三）年
むかさごうおやまだむら
穆佐郷小山田村
げん
（現・宮崎市高岡町穆佐）

はい！
お父様！

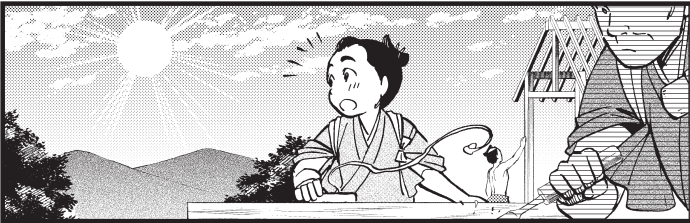
タタッ



高木家は
代々薩摩藩の藩士の
家柄であつたが
父の喜助は
普段は大工の棟梁と
農業で生計を立て
穆佐城のふもとで
暮らしていた



兼寛は
七歳から
父の仕事
を手伝っていた



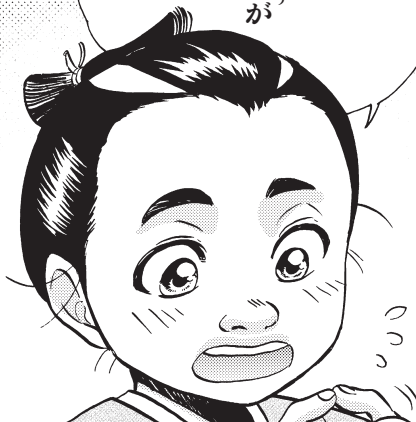
ん？
どうした？

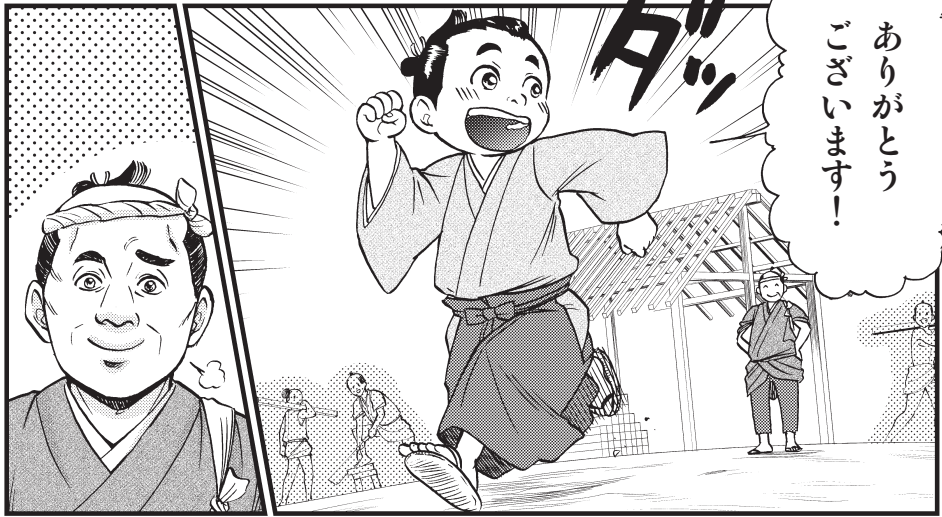
あつ
いえ…

そろそろ
中村先生の
夕方の授業が
はじまる頃
かなと…

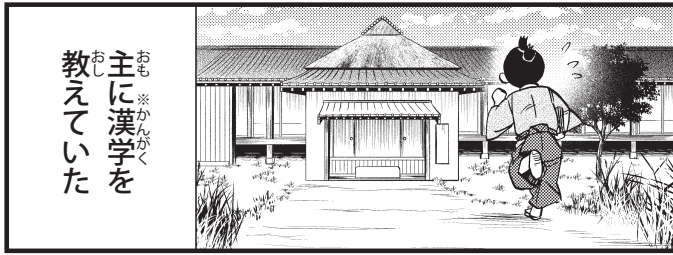
そうか！
本当に熱心だな

行って
きなさい





※漢学…中国の古典である『易経』『詩経』『書経』『礼記』『春秋』の五経を学ぶ学問
『易経』『詩経』『書経』『礼記』『春秋』の五経を学ぶ学問
『大学』『中庸』『孟子』の四書



おも※かんがく
主に漢学を
おし
教えていた

むかさ
穆佐には
なかむらけいすけ
中村敬助が
ひら
開いた私塾
「中村塾」が
あり

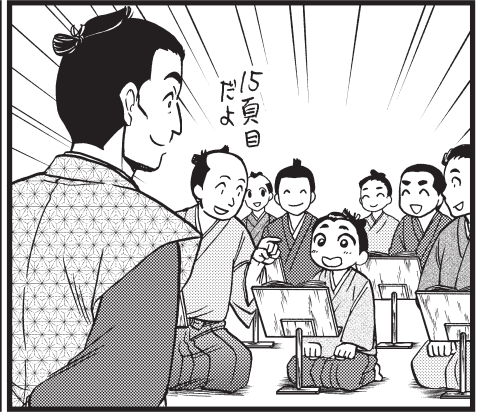
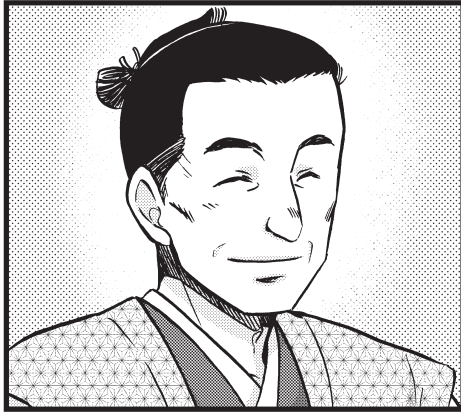
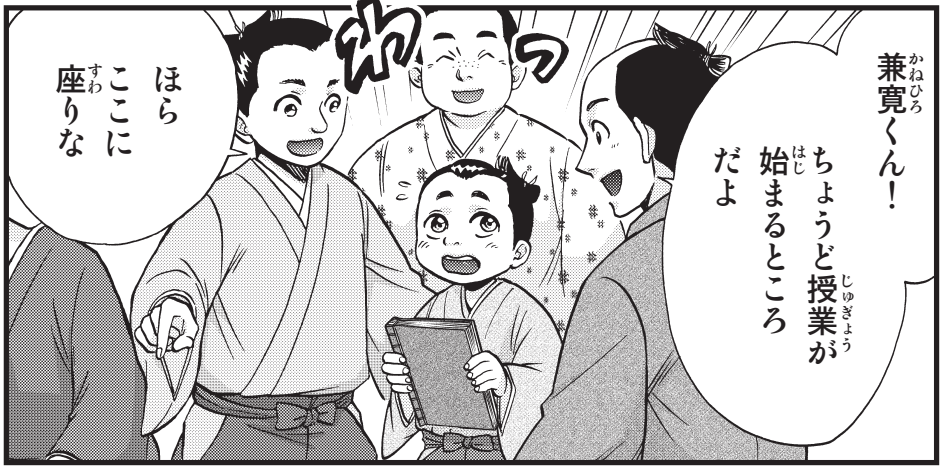


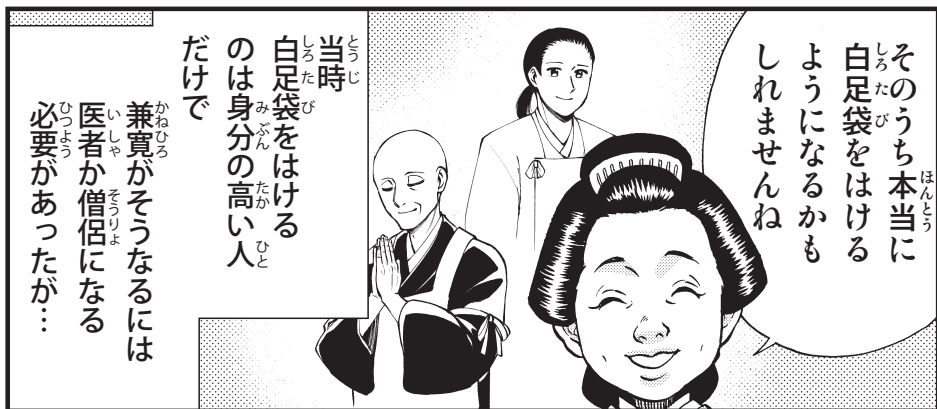
なかむら けいすけ
中村 敬助

おお!
かねひろ
兼寛くん
おかえり
なさい



おそ
遅くなって
すみません！





そのうち本当に
白足袋をはける
ようになるかも
しれませんね

当時
白足袋をはける
のは身分の高い人
だけで

兼寛がそうなるには
医者か僧侶になる
必要があったが…

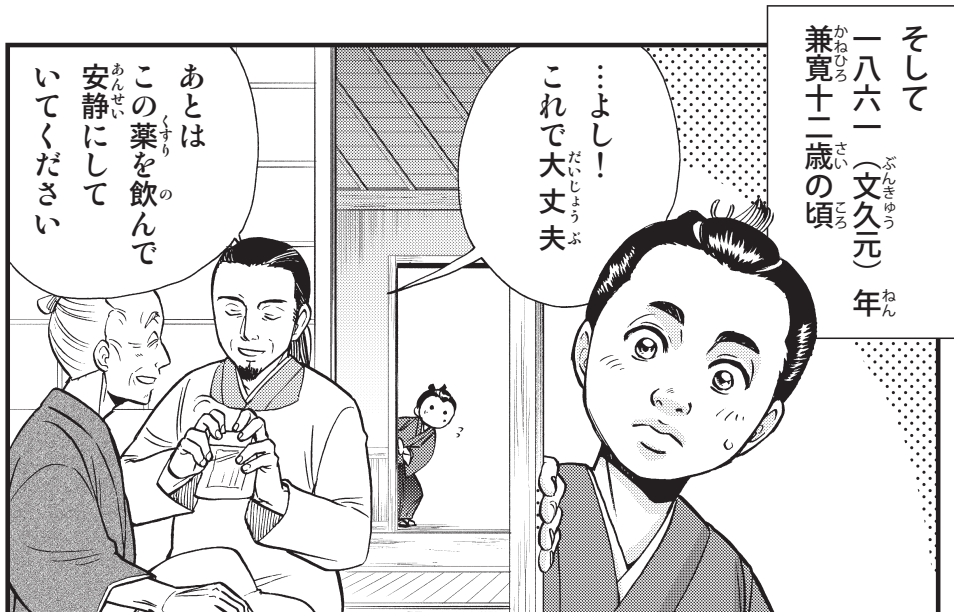


兼寛には
大工の仕事を
継いでもらわなきゃ
ならんのだぞ

勉強する
のほい
いかに
か

あらあ
あなたより
立派な大先生に
なるかも
しれませんのに

えん?
えん?



そして
一八六一(文久元)年
兼寛十二歳の頃

…よし!
これで大丈夫

あとは
この薬を飲んで
安静にして
いてください

きつとよく
なりますよ！



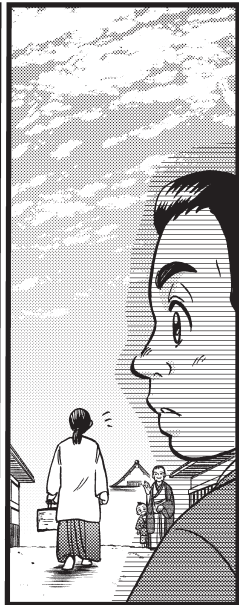
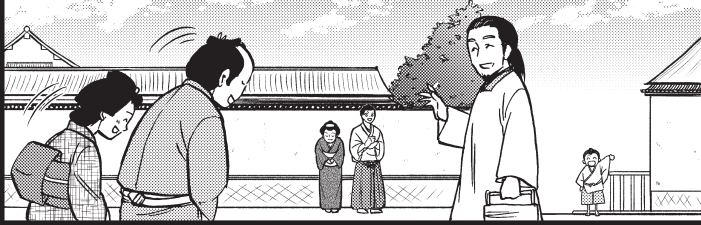
くろき りょうすけ
黒木 了輔

ありがとう
ございます！

くろき りょうすけ
黒木了輔は
むら ひとびと
村の人々から
そんけい
尊敬される医師で



かねひろ
兼寛に
とつても
あなが
憧れの存在
であった

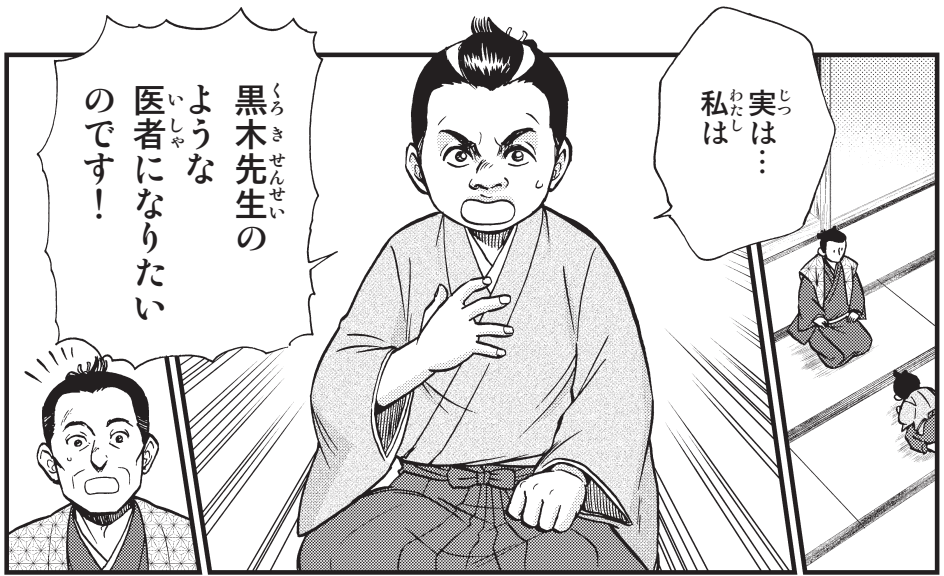


……

なかむらじゆく
中村 塾

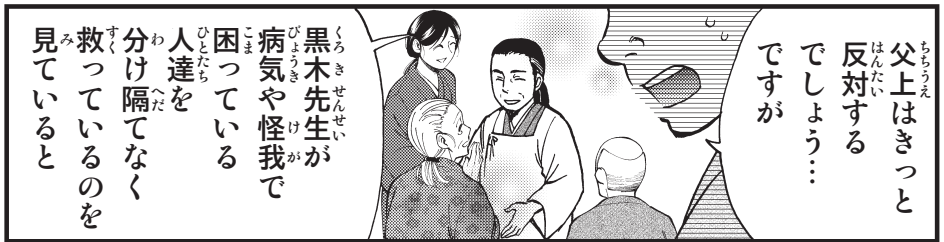
どうした？
あらた
改まって
そうだん
相談なんて





実は…
わたしは

くろきせんせい
黒木先生の
ような
いしや
医者になりたい
のです！



ちちうえ
父上はきつと
はんたい
反対する
でしよう…
ですが

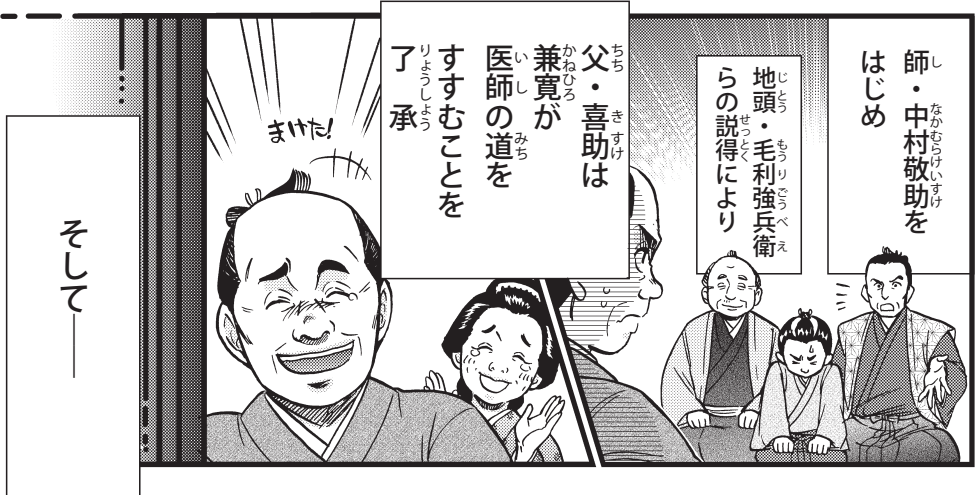
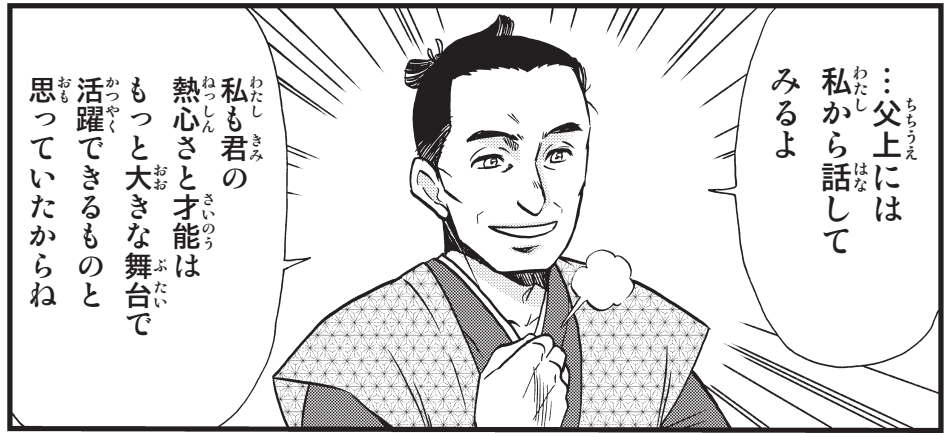
くろきせんせい
黒木先生が
びようきが
病氣や怪我で
こま
困っている
ひとたち
人達を
わへだ
分け隔てなく
すく
救っているのを
み
見ていると



わたし
私も

ひと
人を救いたいと
おも
いう想いが
あふれて止まらない
のです……！！

…そうか



父が藩士としての
任務で京都に
行っていたこと
などで時間は
かかったが

一八六六（慶応二）年
ついに

かねひろ せい
兼寛 17歳

鹿児島（かごしま）の医学（い）学校（がく）で
医学（い）を学（まな）び始（はじ）める

※喜助（きすけ）の任務（にんむ）…京都（きょうと）守衛（しゅゑい）として京都（きょうと）で護衛（ごゑい）の任務（にんむ）についていた

しかし

それ（それ）も
束（つか）の間（ま）……

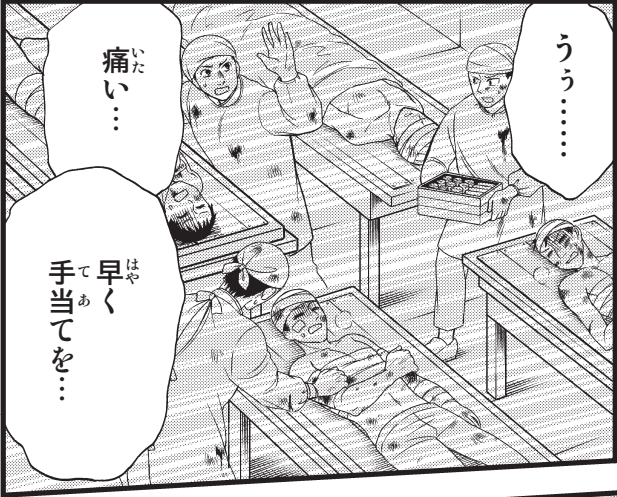
いしがみ りょうさく
石神（いしがみ） 良策（りょうさく）

兼寛（かねひろ）は軍医（ぐんい）として
戦地（せんち）に赴（おもむ）くこととなつた

一八六八（明治元）年
戊辰戦争（ぼしんせんそう）が勃発（ぼつぱつ）

※戊辰戦争（ぼしんせんそう）…新政府軍（しんせいふぐん）と旧幕府軍（きゅうまくふぐん）との戦争（せんそう）

きょうと しょうこくじ
京都 相国寺
まうげんいん
養源院



いたい…

うう…

はやく
てあて
手当てを…



バァ

バァ



出血が
止まらない…!

銃でつけた
傷はこんなにも
治りにくい
のか…!!



大丈夫
ですよ！
すぐに
よくなり
ますから…!

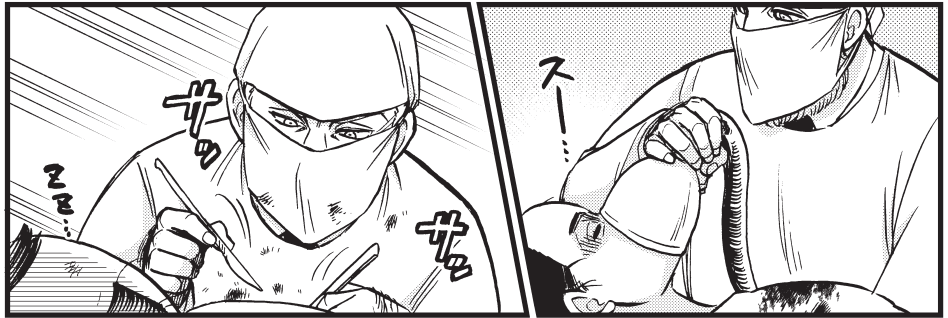
ギ

ギ



じん いし
イギリス人 医師
ウィリス

じゅうしょうしや
重傷者を
こちらに
運んでください!



かみわざ
神業の
よつだ!!

たぶら...



わたし
私ももつと
イギリスの医療を
学びたい……

くる
苦しむ人たちを
助けたい……!!

ぼんせんそう
戊辰戦争が
しゅうけつ
終結した後
かねひろ
兼寛は
せいようがく
西洋医学の
じゅうせいの
重要性を強く感じ
せいまいいし
ウイリス医師から
せいまいいし
西洋医療を
まな
学ぶこととなった

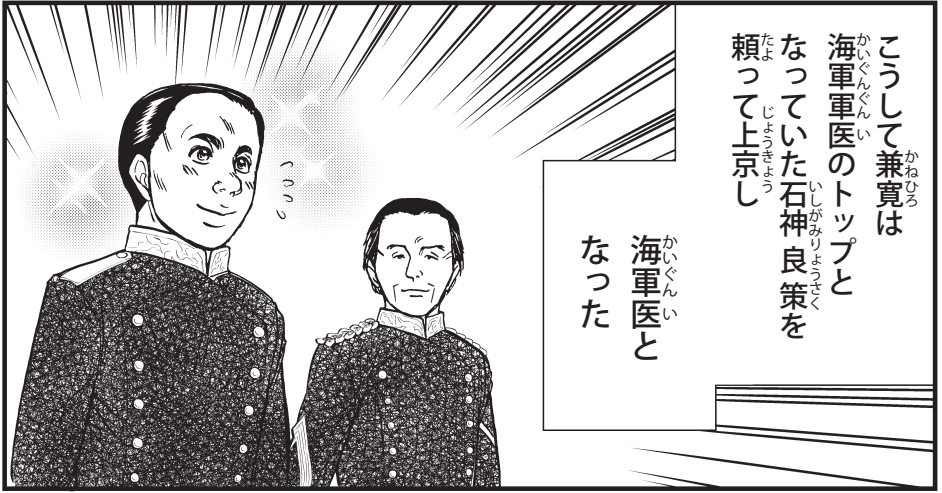
いし
ウイリス医師は
かねひろ
兼寛の才能と
べんきまうしん
勉強熱心さに
かんしん
感心し兼寛に
りゅうがく
イギリス留学を
すす
勧めていた



いしがみせんせい
まずは石神先生を
たよ
頼って海軍医に
なりナサイ

りゅうがく
そうすればすぐに
留学の道が
ひろ
拓けるデシヨウ

あき
あき



こうして兼寛は
海軍軍医のトップと
なっていた石神良策を
頼って上京し

海軍医と
なった



一八七二
(明治五)年
海軍病院
にて



…うん
これは…

かっけの
初期症状
ですね

無理せず
安静にして
ください

また
かっけか
……

脚気

古くは日本書紀にも

記述があり

平安時代には

「脚の氣」と呼ばれ

皇族や貴族などの

上流階級を中心に発生

江戸時代になると

武家や町人にも

広がり「江戸煩」

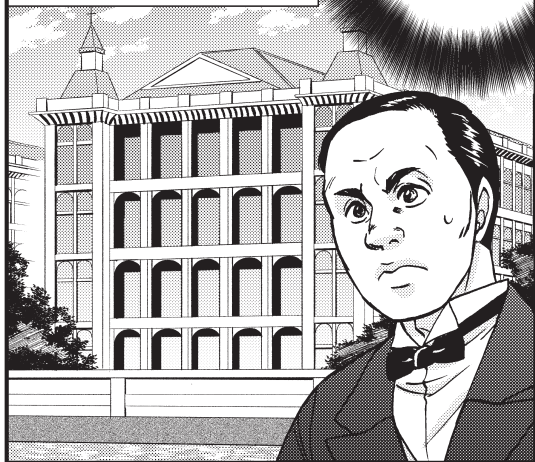
(えどやみ・えどわづらい)

と言われるほど

江戸で大流行していた

※江戸煩：江戸で発症者が多く、田舎に帰ると治ったので江戸特有の病と思われていた

1875 (明治8) 年
イギリス
セント・トーマス病院
医学学校



きこつて
こころでなら
……!!

治つても
繰り返しかかる
人も多いし
悪化すると
ひどくなってしまう
人もいる

まだ原因が
わからず
治療法も
確立して
いない……
だけ

イギリス留学を
実現させた
兼寛は

熱心に
勉学に励み
十三もの賞を
受けるなど
活躍したが……

えっ!?

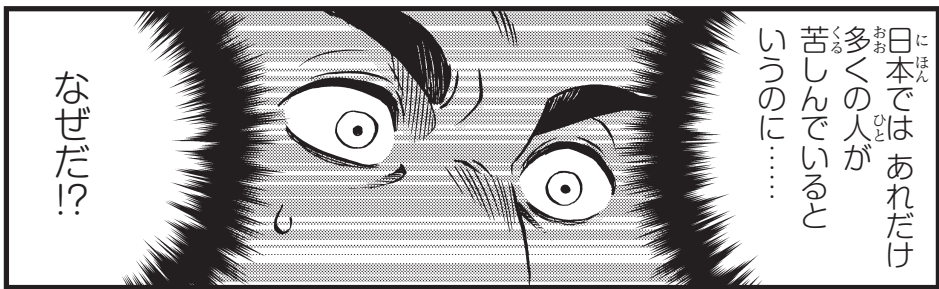


ええ……
そんな病気は
聞いたことがない
ですね……

……

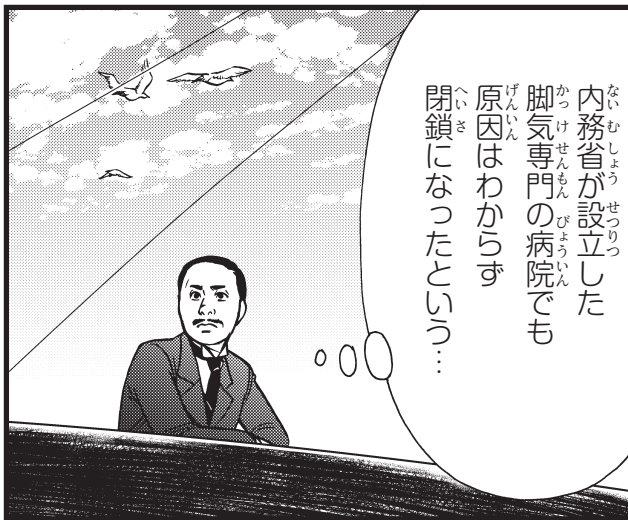


イギリスでは
脚気患者が
いない!?

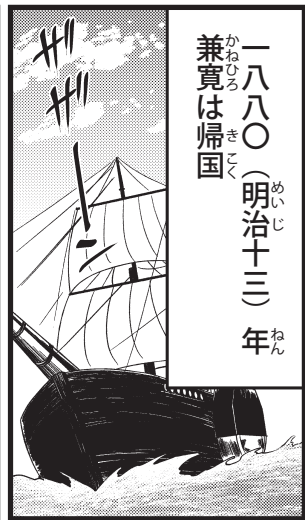


日本ではあれだけ
多くの人が
苦しんでいると
いうのに……

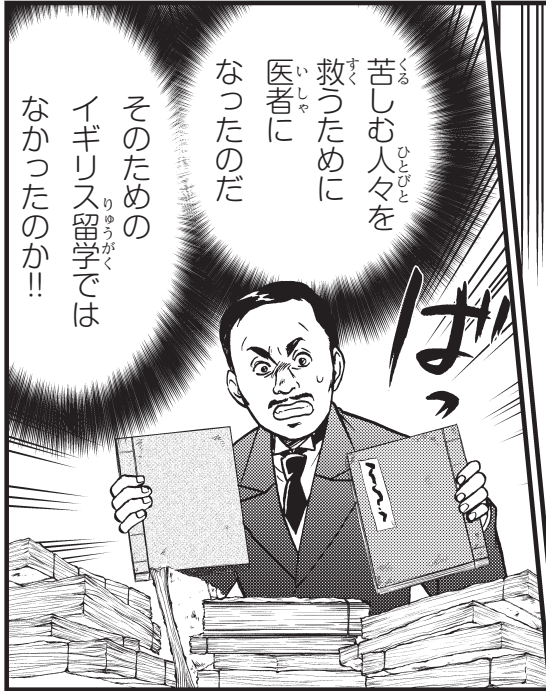
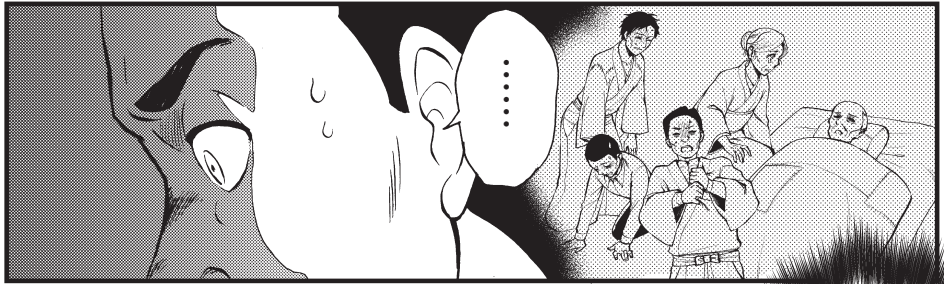
なぜだ!?



内務省が設立した
脚気専門の病院でも
原因はわからず
閉鎖になったという……



一八八〇（明治十三年）
兼寛は帰国



いや……
諦めるものか!!

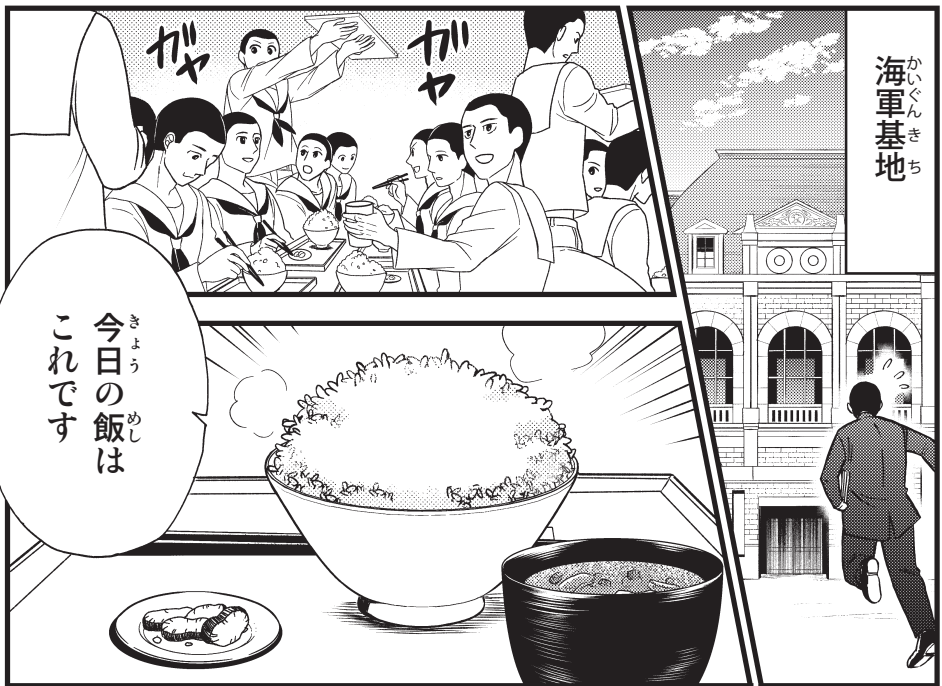
苦しむ人々を
救うために
医者になっただ

そのための
イギリス留学では
なかったのか!!



兼寛は留学で
身につけた
最先端の医学知識と
幼い頃から
変わらない勤勉さで
徹底的に現状を
調べあげた

そして――

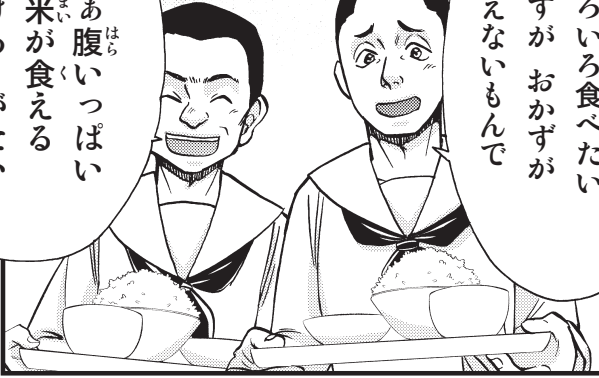


いろいろ食^たたい
ですが おかずが
買^かえないもんで

まあ腹^{はら}いっぱい
白米^{はくまい}が食^くえる
だけありがたい
もんだよ!

ははは

……



海軍^{かいぐん}の中^{なか}での
脚気^{かっけ}患者^{かんじや}は
下級^{かきゅう}水兵^{すいへい}が多い^{おほ}

やはり
発症^{はつしやう}者は十分^{じゆうぶん}に
食事^{しょくじ}がとれて
いない者^{もの}たちだ

……しかし
イギリス^{いぎりす}では
それでも脚気^{かっけ}患者^{かんじや}は
全^まくいなかっただ
これは……

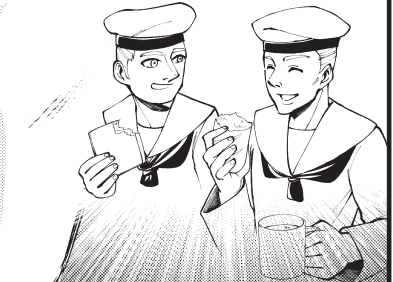
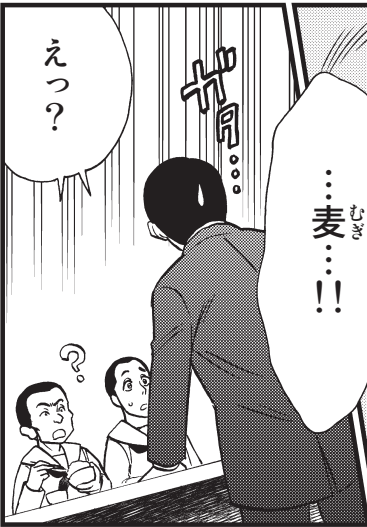


!!!

……麦^{むぎ}……!!

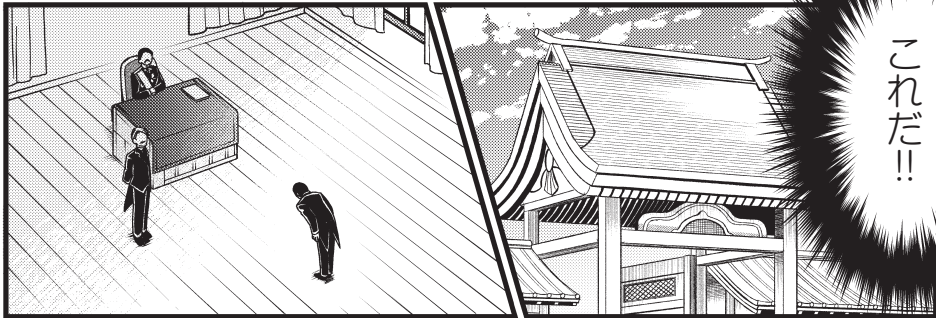
えっ?

お見^み……



※おかずが買^かえない…当時^{たうじ}、下級^{かきゅう}水兵^{すいへい}たちは給料^{きやうりやう}からおかずを買^かわなければならなかったが、多^{おほ}くの^{おほ}下級^{かきゅう}水兵^{すいへい}たちはそのお金^{おかね}を実家^{じつか}への仕送^{しおく}りにあてていた

これだ!!



「それは「食事」です」

日本国民を長く苦しめてきた脚気の原因……

いとう ひろふみ 伊藤 博文

めいじてんのう 明治天皇

脚気は炭水化物・たんぱく質の栄養バランスがとれている時には発症しません

しかし海軍のように長期航海をする間に白米しか食べずにいると栄養が偏り発症してしまいます

バランスO

バランスX

ぜひともしも
海軍の
兵食改善を
お願いいたします

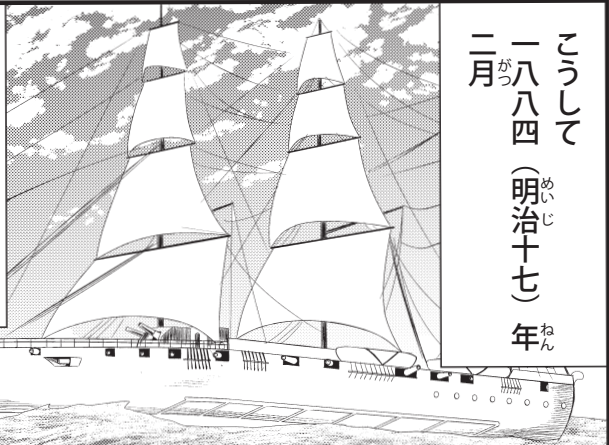
かならずせいか
必ず成果を
あげてみせます！

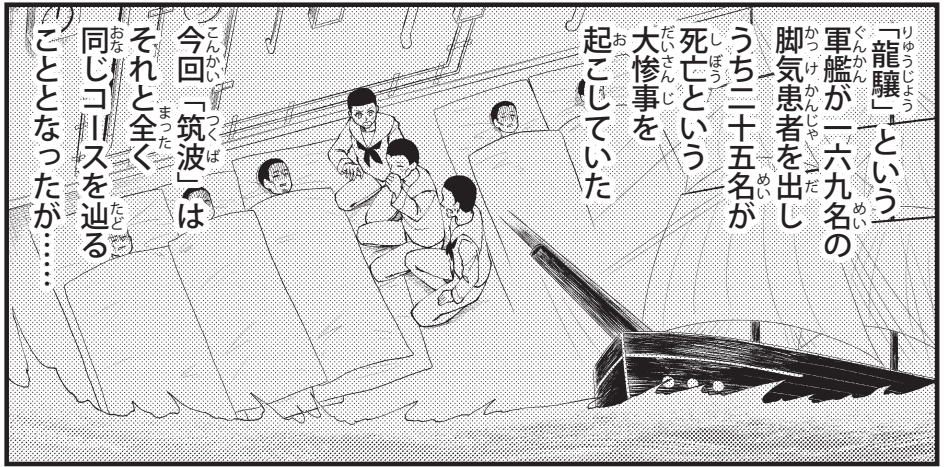
…わかった
そなたの言を
信じよう

こうして
一八八四（明治十七）年
二月

兼寛指導の下
兵食改善が
なされた軍艦
「筑波」の
実験航海が
始まった

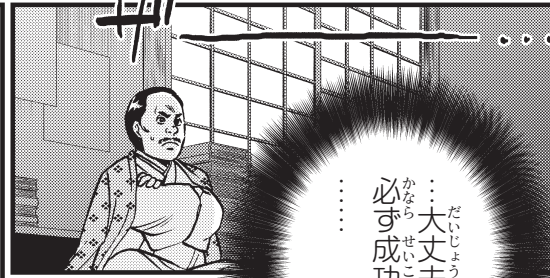
その一年前





「龍驤」という
軍艦が一六九名の
脚気患者を出し
うち二十五名が
死亡という
大惨事を
起こしていた

今回「筑波」は
それと全く
同じコースを辿る
こととなったが……



……大丈夫だ
必ず成功する
……



研究を……
私を育ててくれた
恩師たちを
信じよ!!

「筑波」が日本を
出発してから
およそ七ヶ月

天皇陛下に
訴えてまで
実現させた
実験航海

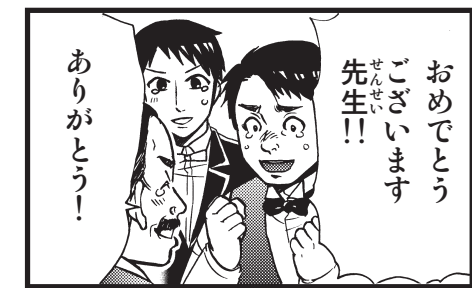


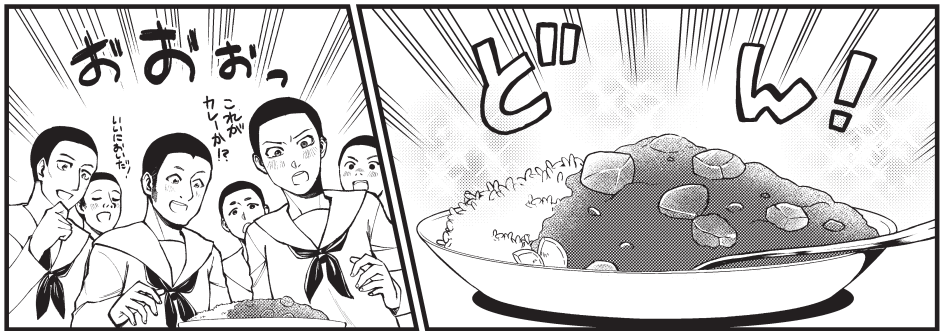
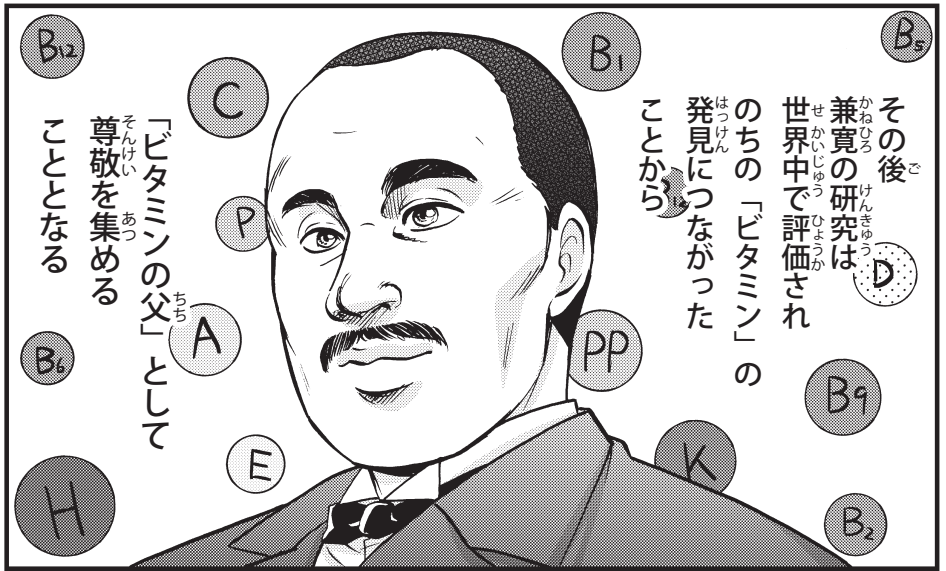
その失敗は
三〇〇名以上の
乗組員たちの
命を危険にさらす
ことでもあった



そして
一八八四
(明治十七)年九月





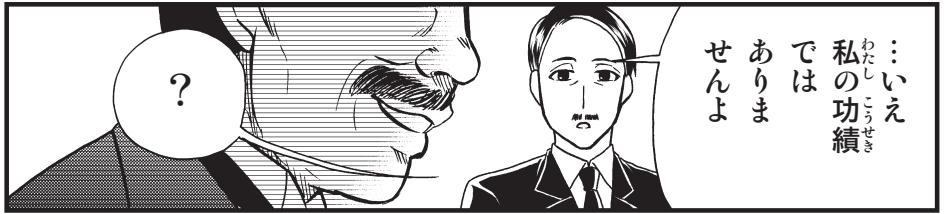




それにしても…
先生のおかげで

脚気患者は
激減しました

ほんとう
本当に
すばらしい
ことです



…いえ
私の功績
では
ありませんよ

?



優れた土地が
優れた人材を
生むのです

地霊
人傑

私を育ててくれた
人たちのおかげで
今の私があります



礼なら…

わたしの郷土と
先人たちに
言ってください



兼寛は
脚気研究の他
日本初の
看護婦教育所の
設立や

裕福ではない
一般の人々も
受診できる病院の
設立など

生涯をかけて
医に心身を
捧げた



ビタミンの父・高木兼寛をめぐって

日本の国民病とも呼ばれていた脚気の原因を突き止め、多くの命を救った高木兼寛。その功績が海外でも高く評価される一方で、兼寛は日本の医学発展にも大きく貢献します。

脚気とビタミンの関係性

兼寛は当時、細菌性の感染症だと考えられていた脚気が、栄養の偏りが原因で起こる病だということを突き止めます。海軍の水兵たちの多くも、おかずを買ってお金を故郷への仕送りにあてていたため、十分なおかずを食べずに米ばかりを食べていました。そこで兼寛は、食事におけるたんぱく質と炭水化物の割合を詳細に調べることにします。

調査の結果、たんぱく質1に対して、炭水化物が23以上になると必ず脚気にかかるということが明らかになりました。そこで兼寛は、たんぱく質と炭水化物の割合が1対23以下になるよう、食事の改善を求めたのです。

その後、脚気はビタミンB₁が不足することによって発症することが発見されます。当

時はまだビタミン自体が発見されていませんでしたが、たんぱく質が多い食べ物には、ビタミンB₁も多く含まれており、たんぱく質を多くとれば、自然とビタミンB₁も多くとることになったため、結果的に脚気の予防につながっていたのでした。

南極大陸に残る「高木岬 Takaki Promontory」

兼寛の研究は、発想の独自性、先見性、成果のすばらしさから、ビタミンが発見された後に、「ビタミンの先駆者」「ビタミンの父」と呼ばれるようになりました。兼寛の研究は世界でも高く評価され、ビタミン学者たちにちなんだ名前がつけられた南極大陸の地名において、「高木岬」という名がつけられたほど。このことは兼寛の偉業が世界で認められたことを物語っています。

病気を診ずして病人を診よ

兼寛はイギリス留学において、学問的研究より患者と向き合うことを重視する「臨床医学」を学び、ナイチンゲールが創設した看護婦養成学校などでも、看護婦の重要性や、貧しい人のための病院の必要性を強く意識しました。しかし、帰国した兼寛は当時の日本の医療界に落胆します。「庶民は相手にしない」という医師の特権意識や、「学術上の研

究に寄与すると認められる患者のみ入院を許す」といった医療制度。このような医療現場を目的の当たりにした兼寛は『医学の目的とは何か。病人を治すことである。実験研究も、全てはその過程としてあるのではないか。医者の中には「病氣」があるのではない。「病氣になった人間」がいるのだ。その「人間」をさしおいて、「病氣」だけに目を向けるとは何事か』と憤ったといっています。この兼寛の「病氣を診ずして病人を診よ」という想いが、東京慈恵会医科大学に建学の精神として今に伝わっています。

日本の医療の発展に貢献

兼寛は自身の研究に心血を注ぐだけでなく、医療の発展にも情熱を燃やしました。兼寛は当時の日本の医療界を刷新すべく、有志とともに民間医学団体・成医会を結成し、医学校である成医会講習所を設立。医師になるための試験の受験生に医学諸学科を教え、多数の医師を輩出しました。その合格率は他の学校と比べても群を抜いて高かったといえます。成医会は現在でも学術団体として存続しており、成医会講習所は後に、東京慈恵会医科大学となり、高木兼寛の信念を今に伝えていきます。その他にも、貧しい人々のための病院である有志共立東京病院（のちの東京慈恵医院）、日本初の看護学校「東京病院看護婦教育所」の設立など、日本の医療の発展に大いに貢献しました。

高木 兼寛 略年譜

年号	年齢	略歴	国内外の動向
1849	0	薩摩藩日向国諸県郡穆佐郷小山田村（現・宮崎市高岡町穆佐）に薩摩藩郷士・高木喜助の長男として生まれる。	
1853			ペリー浦賀に来航。
1856	7	中村敬助に四書五経を学ぶ。	
1858	9	阿万孫兵衛について示現流の剣術を習う。	
1866	17	鹿児島で石神良策に医学を学ぶ。	
1867	18	岩崎俊斎に蘭学を学ぶ。	大政奉還、王政復古の大号令。
1868	19	倒幕軍（薩摩藩九番隊付）として上京。	戊辰戦争勃発（翌年終結）。
1869	20	鹿児島医学学校（藩立開成学校）に入学。英医ウィリアム・ウィリスのもとで、医学及び英語を学ぶ。	
1872	23	上京し海軍省九等出仕。瀬脇富と結婚。	
1875	26	ロンドンのセント・トーマス病院医学校に入学。	
1877	28		西南戦争勃発（1月～9月）。 政府が脚気の原因究明と療法の調査開始。
1880	31	同校を首席で卒業し帰国。海軍中医監、東京海軍病院長に就任。	
1881	32	民間医学団体「成医会」結成。成医会講習所（東京慈恵会医科大学前身）設立。所長となる。	
1882	33	海軍軍医大監に任ぜられる。海軍将兵の食事の実態調査始まる。有志共立東京病院（東京慈恵会医院の前身）を設立。	
1883	34	龍驤号事件発生。脚気の栄養原因説を発表。海軍将兵の脚気予防策として、海軍の兵食を改善する必要があることを明治天皇に奏上する。	
1884	35	練習艦筑波、出帆。	
1885	36	麦飯の採用で海軍から脚気激減。わが国初の看護学校、看護婦教育所設立。兼寛、海軍軍医総監に任ぜられる。	
1888	39	日本初の医学博士の学位を授与される。	
1890	41	海軍の脚気撲滅を天皇に奏上。	
1891	42	勲二等瑞宝章を受章。	
1892	43	貴族院議員に勅選される。	
1894	45		日清戦争が起こる（翌年終結）。
1898	49	大日本医師会会長となる。	
1899	50	宮崎神宮大造営計画を幹事長として推進。	
1901	52	東京市会議員に当選。	
1904	55		日露戦争が起こる（翌年終結）。
1905	56	男爵を授けられる。	
1906	57	欧米講演旅行に出発。コロンビア大学、フィラデルフィア医科大学ほか各国大学で講演する。	
1912	63	国民体育奨励の講演行脚開始。	フンクが白米病予防因子をビタミンと命名する。
1914	65		マッカラム、脚気予防因子をビタミンBと命名。
1915	66	勲一等瑞宝章を受章。	
1916	67	「心身修養」を出版。全国各地で講演会を行う。	
1920	71	脳溢血のため逝去。	

マンガ宮崎県郷土先覚者シリーズ③ **ビタミンの父 高木兼寛**

令和4年3月発行

発行／宮崎県

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号

宮崎県 総合政策部 みやざき文化振興課

TEL : 0985-26-7099 FAX : 0985-32-0111

協力／高木兼寛顕彰会 会長 中山芳教

マンガ／太神美香

制作／株式会社

〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代3丁目2番1号

TEL : 092-643-7075 FAX : 092-643-7095
